エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N－ro 117　　Januaro 2008

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO　　北海道エスペラント連盟
ĉe HOŜIDA Acuŝi　　〒053-0844 苫小牧市
Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI　　宮の森町２丁目１８－１８
053-0844 JAPANIO　　星田 淳 方
TEL-FAKS:0144-74-2539　　Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp
Poŝtĝirkonto（郵便振替）：02700-6-17075
＊Sekretario: SATOO Eiji　　＊事務局：佐藤英治
TEL(poŝ):090-2054-8751　　TEL-FAKS:0144-58-2174
Retadreso : helano88@ka2.so-net.ne.jp
＊TTT-ejo : http://www5d.biglobe.ne.jp/ hel/jp/index-j.htm

［Ｅｎｈａｖｏ／目次］

・表紙、Ｅｎｈａｖｏ／目次　P. 1
・Sur la sojlo de Novjaro 2008/ 2008年の　年頭に当たって /Prezidanto de Hokkajda Esp.-Ligo HOŜIDA Acuŝi　P. 2
・Saluto pri reaniĝo al HEL/HEL 再加入にあたってのご挨拶 KAWAI Yuka／川合由香
・Tutlande dissendiĝos verko pri Verda Majo(HASEGAWA Teru) "Du pomoj perditaj~kion ŝi postlasis60 jarojn post sia morto?" 長谷川テルの全国放送『失くした二つのリンゴ　～没後６０年・長谷川テルが遺したもの～（仮題）』/Komentas HOŜIDA Acuŝi　P. 3
・92a U.K. de Esperanto JOKOHAMO 4-11 de aŭgusto 2007 /92UK 出席顛末記/ 三浦清／MIURA Kiyosi　P. 5
・南インド小史／Historieto de Suda Barato ／後藤　義治/Gotô Yosiharu　P. 8
・Miaj 3 devizoj por ne okazigi militojn/ 戦争をしないための私の３か条／CUBAKI Jooko/ 椿　曜子　P.10
・Esperanto en la verkoj de SEGAŬA(SEGAWA) Masao(Scienc-Fikcia verkisto)/瀬川昌男（ＳＦ作家）の作品に出たエスペラント/HOŜIDA　P.12
・Danke ricevitaj　－受領郵便物－（星田淳　扱い）　P.13
・Raporto de Tomakomaja Esp.-Societo／苫小牧エスペラント会活動報告（2006\Dec.~2007\Nov. ）　P.14
・ザメンホフ祭報告　P.15
・［第３回委員会報告］Protokolo de la 3-a Komitata Kunsido
・編集後記／Redaktanto parolas ...]　P.16

Sur la sojlo de Novjaro 2008
2008年の 年頭に当たって

Prezidanto de Hokkajda Esp.-Ligo HOŜIDA Acuŝi

星田です。今年もよろしくお願いします。今年は国連の世界言語年。ユネスコの松浦晃一郎事務局長のメッセージは言語の多様性と母語による教育の重要性、2月21日の「国際母語の日」の意義を指摘しています。この内容は、「エスペラント運動に関するプラハ宣言」の第5項、第6項と一致するものです。

昨年横浜での世界エスペラント大会には北海道から37人の参加者があり、世界の参加者とともに多くの出会い、交流、刺激がありました。その内容は機関誌の寄稿文でも読み取っていただけていると思います。

今年は国連、ユネスコの「国際言語年」です。多様な言語を尊重していこうとするユネスコの立場を支持し、その言語・文化の間のかけ橋としてエスペラントの意義を訴えていかねばなりません。国際団体（UEA など）、各国の団体（JEI など）は今そのための取り組みにかかっています。

エスペラント運動はまだ「少数者の運動」であり、エスペラントで何ができるか、何をしているのか、を理解してもらうことが基本的な活動、という状態はまだ続くでしょう。その基本的活動の状態がこれでいいか。道内で常時講習が行われているのは2ヵ所、ほかに個人的学習の場がいくつかある程度。

横浜UKの成功はすばらしいものでしたが、それを我々の活動にどう生かすか、地方活動の停滞をどうやって打破するか ---- 話合い、行動したいと思います。

Saluto pri reaniĝo al HEL
HEL 再加入にあたってのご挨拶

KAWAI Yuka／川合由香

Saluton, karaj HEL-anoj, skribas KAWAI Yuka, kiu unufoje malaniĝis de HEL en 2000. Mi revenis.

En printempo de 2000, iu HEL-ano, s-ro M, kontribuis al "Heroldo de HEL" propagandajon de libro "Historio de Nacianoj"(jpn. 『国民の歴史』), kiun verkis isto de Libera Vidpunkto pri Japania Historio (jpn. 自由主義史観). La "vidpunkto" estas japanio-centrismo, t.e. imperiismo. Mi sentis tiu ĉi ismo ne agordiĝas kun ideo de E. Tamen, lia kontribuajo aperis sur nia oficiala organo.

Tute nature, kritikopinioj de multaj legintoj - ene en HEL kaj en aliaj lokaj rondoj - alvenis al HEL. Mi pensis, ke la kritiko estas justa. Je komitato-kunsido de HEL, ni - ankaŭ mi tiutempe estis komitatano - diskutis pri reago de legintoj de la kontribuajo. Kelkaj mense jesis la kritikon, sed ne povis trovi efikan kontraŭopinion.

Ĝenerale en E-ujo, organo/gazeto kaj dissend-listo havas principon jenan ; por E, pri E, per E. La kontribuajo de s-ro M estis skribita en E. Tial kelkaj komitatanoj jesis aperigi ĝin. Mi ne povis toleri. Komitatanoj, kiuj akceptis la kontribuajon, citis Liberecon de Parolo (jpn. 言論の自由).

Mi asertis sube ; Libereco de Parolo fakte estas garantiata de Japana Konstitucio por ĉiuj nacianoj. Tamen, HEL ne estas grupo el 5800000 da hokkajdanoj senorde elektata sed grupo de volonte kolektiĝintaj kun kunsento al ideo de E. Sekve, en E-ujo ianivela limo ekzistas kaj necesas. Opinio jesi militon ne estas akceptata.

Tamen, mi ne povis akiri kunsenton de aliaj komitatanoj. Ili deziras, laŭ mia supozo, pli trankvile trakti tiun ĉi aferon. Mi koleriĝis kaj malesperis. Tiel, mi malaniĝis de HEL.

Kvankam mi tiel malaniĝis de HEL, mi tenadis privatajn amikrilatojn kun kelkaj HEL-anoj. Sed mi ne intencis reveni al HEL iadaŭre. Mi estis okupita, ĉar en 2001 naskiĝis infano. Kaj pro laceco mi estis malsana psike.

Tamen, en 2006, laŭ rekomendo mi partoprenis en Zamenhofa Festo de Sapporo-E. Societo. Tie mi aŭdis, ke s-ro M jam malaniĝis kaj li ial fariĝis subtenanto de artikolo 9-a de Japana Konstitucio. La kialon mi ne povis kompreni. Sed tiuokaze mi reaniĝis al HEL, ĉar mi konkludis, ke nur lerni E-on izolite ne estas produktiva.
Tiel mi revenis al HEL.

En la lasta komitato-kunsido, oni elektis min esti estro de Stud-Eduka fako. Bv. ree konatiĝi kaj amikiĝi kun mi. Mi volonte laboru.

Tutlande dissendiĝos verko pri Verda Majo (HASEGAWA Teru)
"Du pomoj perditaj～kion ŝi postlasis 60 jarojn post sia morto?"
長谷川テルの全国放送『失くした二つのリンゴ ～没後６０年・長谷川テルが遺したもの～（仮題）』

Komentas HOŜIDA Acuŝi

En konkurso organizita de japanaj civilaj televido-stacioj akiris la unuan premion la verko pri Verda Majo. Oni dissendos ĝin en la 11a de februaro tutlande.

全国33の民間テレビ局で組織されている（財）民間放送教育協会（略して民教

協）は「民教協スペシャル」として毎年加盟局に番組企画コンペを呼びかけています。

2008年2 月11日に，第22回目のスペシャル番組として，RCC中国放送の長谷川テルを主題とする企画が最優秀賞を獲得，放映されます。北海道では北海道放送（ HBC）から 2月11日（月・祝） 14:55～ 15:50 となっています。以下民教協のホームページから少し引用します。

日中戦争前夜、自らの意思で、エスペラントで結ばれた夫の祖国中国に渡り、中国戦線の日本兵に向けて、ラジオ放送で戦争を止めるように訴えかけた一人の女性がいます。国際エスペランティスト、長谷川テル（１９１２～１９４７）です。テルの行動は、当時の新聞で「売国奴」と名指しで報道されましたが、「お望みとあれば、どうぞ私を売国奴と呼んでくださっても結構です。私はこれっぽっちもおそれはしません。むしろ、私は他民族の国土を侵略するばかりか、なんの罪もない無力な難民の上に、この世の地獄を現出させて平然としている人々と同じ民族の一人であることを恥とします。ほんとうの愛国主義は、人類の進化とけっして対立するものではありません」と毅然と語りかけました。

民族のしがらみを越えて、自分の信念で、祖国に対峙した長谷川テル。二つの国の間で苦悩しながら、故郷を思いながら極寒の中国東北部で３４歳の若さで亡くなりました。長谷川テルについては、日中国交回復を記念して１９８０年に、杉村春子の語り、栗原小巻主演の、初の日中合作ドラマ「望郷の星～テルの青春」として放送されました。今回は四半世紀ぶりに初めてのドキュメンタリー作品として制作放送するものです。

番組では、その足跡をテルの遺児である娘、暁子が辿ります。暁子は０歳のときに両親と死に別れ、中国で孤児として育ちました。日中国交回復後、初めて日本を訪れ、１９９３年に国籍を取得しました。暁子さんのとつとつとした言葉は、私たちの胸に重く響きます。

激動の時代を生きた母と娘、その二人の女性の生き方から、人生の切なさ、そして平和の尊さを、静かに語りかけるヒューマンドキュメンタリーです。戦争によって引き裂かれた絆をつなぐメッセージを広島から全国発信します。

>> タイトル　二つのリンゴとは？

テルが残したエスペラント語の詩に「失くした二つのリンゴ」があります。子どもの生命力、元気の象徴ともいえる「赤いほっぺ」を「リンゴ」に例え、テル自身の「二つのリンゴ」は戦争によって失ったが、それは中国で日本で世界で「赤いリンゴ」が永遠に実らせるために先に落ちた無数のリンゴの中の二つに過ぎないと結びます。この詩は、病床の彼女が、日本に残した母に捧げたものでした。（Komento）

原題は　DU POMOJ PERDITAJ　-en malsanlito-
で、VERKOJ DE VERDA MAJO(ĈINA ESPERANTO-ELDONEJO) の 395～399 ページにあります。

92a U. K. de Esperanto
JOKOHAMO 4-11 de aŭgusto 2007
92UK出席顛末記

三浦清／MIURA Kiyosi

Jen taglibra raporto de la tagoj de 92a UK(Jokohamo)...(komentas Red.)

8月3日

５号台風の動きが気になって、エアドゥに Telを入れ一日早く 12:35千歳発の便に乗った。安い航空運賃なので千歳では駐機場までバスで行くんだ。羽田から横浜まで６５０円のバスに乗った。前泊予定してなかった。今晩の１泊させて下さい、田舎に泊まるのとちがう、予約してないと駄目。駅員の紹介でＪＲ東日本のびゆプラザの職員がパソコンをたたいてさがしてくれた。ホテルキャメロットジャパン、10F 1033号室。

8月4日（土）曇、暑い

朝食２Ｆのレストランでバイキング、いいムード静かだ。陸橋が多い。ＴＶ見ると台風５号北海道東北通過、前泊が正解だったか。

横浜は日本エス大会で来てるので２度目だ。暑いし疲れるので東横インホテルまでハイヤーに乗った。身障手帳割引料金だ。ガード下など落書きが多い。ずいぶんスピード出す。チェックイン４時からなので新館に荷物を預け cefkongresejo であるパシフィコ横浜に行く。みなとみらい線利用、日本大通り駅に行くのに、わかりづらい、エスカレーターだ。馬車道を通過してみなとみらい駅で下車。この駅近代的なビル建物、商業圏になってる。急な長い見たことのないエスカレーター。 Kongresejo の Pacifiko-Jokohamo 4F - 5Fだ。受付済ませる。白い布製の買い物バッグスタイルの手提げ赤地に白で 92a UK JOKOHAMO 等表示されてる、中にいろいろ資料入ったバッグを受け取った。5F食事. 販売機で食券を買う. あとセルフだ。窓外の景色横浜という感じ。

６－７名の外人からメッセージ、サインもらった。このために折り紙での鶴の折り方、使用済み切手、小型ノート用意してきた。

リブロセルボで KARLOと Esperanto- 日本語辞典買った。Vortaro 編集に星田、浜田氏がたづさわってる、改めて敬意を表したい。

夕食は早くに売り切れてた。

8月5日（日）快晴すごく暑い.

５：００起床. 星田さんと朝食時ロビーで会った。朝食おにぎり２個、味噌汁に漬け物。電車の中で esperantoの人と出会って一緒にコングレセーヨに行った。A.M.中 Inaŭguro.

上品な外人夫妻の隣席、座っていいか？ とたづねたところ気持ちよくO.K. 聞くと名前はマルヨライネ夫妻、フィンランドの人。ありがとうのフィンランド

語は KIITOSI キイトス. やさしい奥さんで席を立つとき UK を楽しんで、と云ってくれた。LA ESPERO は何度聞いても胸にジンとくるものがある。

みなとみらいホールで後藤さんや児玉さんに会った。P.M.は EKSKURSO-D5で、山下公園、中華街、横浜港とまわった。

夕方 18:00日本の夕べに出席。1FC-4-18, みなとみらいホールで、中央の前の席でよかった。

地下1Fでウドンとご飯の夕食とった。日本大通りで下車してからホテルへの道は尋ねながら帰った。シャワーを浴び、１１時になった。５名の人からサインをもらった。

８月６日（月）快晴、猛暑

5:30起床、今朝ホテルエレベータの中で浜田国貞さんに会った。A.M.中自由発表のようなの聞いた。P.M.初級のクラスに出る。２人（カタリン、シルバー）先生いたが、男性は身ぶり手ぶりのおおげさなこと、部屋の中を精力的に走り回って熱心さが伝わった。手帳型の教科書 1,000円で買った。

インスタント・カメラ買って４－５枚写した。

バンケード、長時間待たされた。なんとバイキングだ。あっという間に売り切れ、カレーライス、ソーメン、チャーハン食べすぎた。隣席は福岡の人、２回手紙くれた。右隣席の人、フランス人と結婚、離婚、ĉiĉeronoやってるとか。シベリア鉄道で来てウラジオで船に乗り換え. 東京出身. MERCI.

８月７日（火）快晴、猛暑３３’Ｃ

8:30までコングレセーヨに集合 Ekskurso D2 曹洞宗本山総持寺へバスで移動。禅宗の寺だ。もと石川県にあったとか。全国の禅寺の一切を仕切っている。古く黒光りしている窓越しにお寺さんの服装した人たちが事務などをやっている。寺の中、案内見学した。何といっても座禅だ、外人の女の人も上手にやっている人も、できない人もいる。

境内でフランスの Genevieveさんに会った。その人たち一行が北海道 Post-kongresoで道内の観光地をまわった。16a/Aŭgusto 帰国したこと、後でわかった。くわしくは La Suno Pacifika ９月号に写真入りで掲載されている。

P.M.は NITOBE Salono 416 で BLE budhano; 真宗大谷派の僧侶で国際仏教 esperanto の事務局長やってるという名古屋市の山口さんが司会から講演から全て仕切っていた。２０名くらい出席者あった。韓国・中国・ネパール７～８名が熱狂的な仏教信者、その人たちの話す名人級でペラ～でデナスカ esperantisto という感じ。本を２～３冊もらった。講演・講習のあと会場の外の大谷派真宗のお寺に行った。そのお寺の名前は忘れたが、猛暑の中をかなりの距離歩いた。その寺の住職の話を聞いたりお茶ごちそうになった。あと本堂へ移動して山口さんが esperantoでお経をあげた。初めて聞いた。疲れたのでビールを飲んで早々に寝た。

8月8日（水）３３’Ｃ

暑い～、酒を飲むと早く目がさめる。4:30起床、朝食後すぐコングレセーヨに行った。今日は全日観光 EKSKURSO E3　行く人たちもう大多数集まっていた。馬場恵美子さんと同じコース。最初宮城、そこでスペインのアンドレーヌという青年に会った。ユースホステルに泊まって各地旅行していると云っていた。解りやすい esperantoを話す人だ。

明治神宮も詳しく見るには１日かかる。

リトワニヤからの出席者６番目に多かった。トヨタショールームで時間充分あった。ＬＥＸＵＳ高級車 5,000cc 1,500万円. あと浜離宮。チェコの婦人、暑いのにスカーフかぶってた。観光は体力勝負だ水ばかり飲んで.

8月9日（木）暑い～～快晴、青い空

今朝、地下鉄に乗るため日本大通りに向かって歩いてると路上生活者のような人が話しかけてきた. 私がオノボリさんに見えたのかもしれない、無視して歩いた。A.M.は会話教室に出た。P.M.は前から見たいと思ってた北朝鮮の工作船を見学に行った。海上保安庁のそばだった。かなり大きな船とそれに乗せる小型船とその他装備・武器など展示品あった。ここでも馬場恵美子さんに会った。見学後赤レンガ内を見た。あらゆる商店が入ってる。外に出たら強烈な夏の太陽がギラ～、コングレセーヨに、戻る。ロビーで机に座ってるおばさん方に鶴と兜の折り紙折ってあげたらチェコのおばさん低額であろう1SK の金貨くれた。コンサートとリトワニヤを聞くため1Fのベンデーヨでフランスの車椅子のおばさんにひっかかった. 絵はがき買入で日本語で印刷されたのほしいというので、みなとみらいホールの店を廻った. あった. 今度は値段が高いとか、むつかしい人だ。

県立音楽堂に行った。本格的オーケストラ、チェコ音楽聞いた。ホテルに帰り、シャワー浴びサンドウィチ食べビール飲んだらもう１１時だ。

8月１０日（金）晴、暑い

明日帰る早いものだ暑くて充分眠れない、寝汗をかいた、安ホテルはエアコンからホコリが出る。A.M.ホールの机にいたブラジル人、看護婦先生、ヒゲの夫と会話した。ＵＫ終わったら大本教の本部に行くとのこと。P.M.はオークションを見た。ものすごい数字が機関銃のように飛びかう。白服の婦人が隣席に座った。あと次回ＵＫのオランダのロッテルダムの宣伝映画を見て居眠りしてた。

国際芸術の夕、隠芸大会、なんとA.M.中に話した例のブラジルの３人が出演した。

8月１１日（土）快晴

帰る。横浜駅までハイヤーに乗った。乗り換えてバスで羽田まで出た。ムーとした暑さ夜も同じ。2:30の飛行機予定通り。空席あれば１便早く帰ろうとしたが空席なかった。快晴だったので眼下に東北・北海道が地図のように見えた。

足がハレ下肢がムクンだ、水分とりすぎか。

南インド小史／Historieto de Suda Barato

---------- 後藤　義治/Gotô Yosiharu

Historio de Barato(Hindio), Karnataka kaj Bangaloro, tradukita el la Dua Bulteno de la 5a Azia Kongreso okazonta februare en Bangaloro.

一般的に日本人はインドの歴史についてあまりよく知っていないのが現状のようです。２月１１日から、エスペラントのアジア大会がインド南部の都市バンガロールで開かれるのを機会に南インドそしてバンガロールについて考えてみましょう。以下の文章はは大会Dua Bluteno に載っていた記事を訳したものです。インド人は自国をインドとはバラートと言います。古代インドの民族大叙事詩マハーバラタ（大バラタ族）に由来します。特に南インドではその傾向が強いと言われています。

バラート、カルナータカ州、バンガロール市

バラートにある州をインド人は余り良く知らない。それは簡単だ！　なぜならインドは少し前にいくつかの州を設立したからだ。現在の州の数は３０。バラートの州には地方自治権がある。たとえば州は健康、治安、教育等の分野について権利を有し、中央政府は国際経済、対外関係、航空、鉄道、などについて責任を担っている。カルナータカ１９５６年１１月１日にマイソールから名称を変更した。

カルナータカ『南の平原』と言われる所で、先住者は旧石器時代に定住した。歴史の古い時代にカルナータカはマウリャー帝国に属していたが、マウリャー帝国と言えばアショカ王で有名である。王は仏教に帰依してアフガンからカルナータカまで経文を記した多くの石碑を建立した。その石碑の７基は現在でもカルナータカにある。

マウリャー後、BC５０年からAD２５０年までカルナータカを治めたのはサータヴァーハナ王で、その時代には海上交易が開花し、ローマ帝国との商取引に使われたローマ貨幣（金貨と銀貨）がカルナータカで沢山出土している。

サータヴァーハナの後継者はカタムバ王である。彼は東のパッラバァ国を救うために道路を遮断した。６世紀までカタムバの首都はヴァーナバーシであり、カルナータカが最も栄えた時代は６世紀に始まるチャールキア国であった。そして３００年続いた。その時この国の首都はバータリプトラであった。今も１００万人の観光客がこの広大な廃墟に魅せられてやってくる。バータリプトラは名声を博したプラーケシ王の遺跡であった。それに続いたのはラシュートラクータ朝である。この時代の人々はアジャンタの石窟にすばらしい壁画の数々を描き、エローラの洞窟に多くの彫刻を残した。とはいえ、ラシュートラクータ人はチャールキア皇帝を軟禁したが、皇帝は再びカリヤーニに国を興し、国名をカリヤーニ・チャールキアと称した。その時代に彼らは独自の建築様式を創り出した。南カルナー

タカ地方、ホイサーラ国の近く、ハレビーダとヴェルールに驚嘆に値する寺院を建立した。カリヤーニのカタフーリ王はチャールキア王に従い、名宰相バーサヴェシュバーラはカルナータカの復興ばかりでなく大社会を築き、その王ヴィラーラは一躍名を馳せた。

宗教は四大体系シュヴァ神教、ヴィシュヌ神教、仏教、ジャイナ教がカルナータカ州に広まり、ジャイナ教とシュヴァ神教は魅惑の建造物をカルナータカに残した。

多分、カルナータカの最も興味があり魅惑的な歴史は１４世紀から１７世紀までのヴィジャヤナガル帝国の時代だ。ヨーロッパの使節やロシア、アラビア、の使節がヴィジャナガル帝国を訪れた首都ハンピは今、千を越える観光客を魅了している。バスコ・ダ・ガマはその時代にバラートを訪れている。この訪問はバラートばかりでなく、世界をも変えた。そしてヴィジャナガルの王はカルナータカの日常生活の大きな流れを後世に残した。

ヴィジャナガルの最後の王クリシュナデーバ・ラーヤは最も重要な言語カンナダ語とテルグ語の推進をしたが、北のイスラムの諸勢力の統一戦争に敗北し、その地で政権交代を経験した。マイソール藩王国の列王はヴォダヤーロである。その時マイソールはカルナータカ地方の首都であった。ハイダール・アリは勇猛な軍人で後にマイソールの周辺に強力な国を築いた。彼の息子ティプ・サルタンは輝かしい後継者である。だが１８世紀の末にティプ・サルタンはイギリスの軍人に殺された。そしてついにカルナータカはイギリスの手に落ちた。

バンガロール

西暦１１２０年にチョーラの王ヴィラ・バラーラは南バラートの端部を支配していた。ある日、彼は野獣を狩るためにジャングルの奥深く入ったが道に迷ってしまった。ジャングルをさ迷い歩いている時一人の老婆に出会った、老婆は疲れた王を哀れんで食事を差し出した。それは蒸かしたソラ豆だったが、王は彼女をねぎらって、村を起こしベンダ・カルール（蒸かしソラ豆）名づけた。今のバンガロールである。１５３７年に村長ケムプー・ゴーダは計画的に村を大きくする援助をした。いま街の中心部はケムプー・ゴーダ宮と呼ばれている。

バンガロールはカルナータカ州の首都であるが、インドでも特に急速に発展した巨大都市である。温暖な気候、友好的な民族性がバンガロールの経済成長を推進し人々を魅惑した。そして国内の地域工業化誘致に成功した。バラートのネール首相は５０年前すでにバンガロールを『未来都市』と言っている。

バンガロールはバラートに於ける庭園都市で多くの小公園が並木大通りで結ばれている。ラルバーグは赤の公園（２００年前に建設された）。バンガロールは多くの年金生活者引き寄せ、緑を愛し楽しんでいます。はやりのソフトウエア産業は『シリコンバレー』の異名をとり、更に酒場が増えて、いまや賑やかな歓楽街になっている。

Miaj 3 devizoj por ne okazigi militojn

戦争をしないための私の３か条

Loĝanta en Noboribecu　CUBAKI Jooko
登別市千歳町　椿　曜子

今回、戦争について記事を書いてくださいと依頼されました。私は戦後生まれで戦争については父、母、祖父、祖母、友達（年上）から「戦争中は、生活に大変苦労した」と言う話は聞いていましたが、戦争の悲惨さ、残酷さの話は聞いていませんでした。それで「何でもいいですよ」と言われても何を書いて良いのか迷ってしまいました。迷いながらも、私が戦争に対して常日頃どのように考え、戦争が起こらないようにする為に自分がどのように行動しているのかを書くことにしました。

私が意識的に実行していることは、「戦争の悲惨さについて友達に話をする」、「エスペラント語を勉強する。」、「物欲捨てる。」、これらの3 点です。

まず1 点目の「友達に戦争の悲惨さについて話をする」事ですが、戦争反対の一番の動機は、息子を戦場に送りたくない、決して戦争で息子を死なせたくないと言う強い気持ちです。現実には、第二次大戦以来、日本では戦争が起こっていませんが、想像をめぐらして、友達には（2 歳～4 、5 歳の子供、孫がいる）憲法9 条が無くなり、もし戦争が起こることになれば必ず子供、孫達は戦争に行くことになり、戦争で命を落とすことになると話をします。多くの友達は、「日本の国が同じ過ちを起こすはずが無いから、決してそのようなことは起こらない。」と反論しますが、「いままで起こらないから今後起こら無い保障は無いのよ」と反論します。「戦争を起こさせない為日常の政治の流れを確り見ようよ。」と話をするようにしています。

又、別な方法では毎月1 冊の雑誌を講読して現在世界で行われている戦争に思いをめぐらせるようにしています。その雑誌名は（DAYS　JAPAN ）と言うフォートジャーナリズム誌で、「一枚の写真がいつか戦争を止める日が来る」との基本理念に基づき写真をふんだんに用いた雑誌です。4 年前に発刊されたもので、私も絶対戦争を起こさせないという気持ちで年間購読し、支援しています。読み終わった号は、娘、息子、友達、姉にプレゼントしています。特に教員をしている姉は、その雑誌を中学生、高校生に紹介し、そのお蔭で彼らが戦争の悲惨さや、残酷さを感じてくれていると言っています。

次の二点目ですが、多くの皆さんにエスペラント語を知ってもらいたいと思います。エスペラント（国際共通補助語）の目的は、母国語の他にどの民族や国家にも属さない公正・中立な共通の言語を学び、それによって市民同士が直接情報を分かち合うことです。一般の市民同士で戦争が起きない方法を考えたり、互い

を助け合う為にもエスペラント語が必要な時代になっています。

私の2 年前の体験ですが、第91回エスペラント世界大会（毎年、世界大会がおこなわれています。）がイタリヤで開催され参加しました。50カ国を超える２000 人以上の人々が参加し、民族、国家、宗教、文化が違っても同じ言葉を話すことによって皆が同じ仲間であるという気持ちになりました。世界の人々が各自の母国語を大切にしながら共通の言葉で話し合い相互理解を深めて行けば、たとえ、対立が起きても平和的な問題解決につながる確率が高くなるはずです。

残りの３番目ですが、できるだけ物欲を捨てるように生活したいと思っています。物欲があり過ぎると世界で起きていることを考えたり、貧しい人たちのことに思いを巡らせたりする感性が失われていくような気持ちがします。自分が満足する事にのみ目を向けてしまうと、他者に対する想像が少なくなる傾向があると思います。そのような例を今年の１１月アメリカで体験しました。それは、フロリダ州マイアミに行く用事があり、マイアミ到着予定時刻は２０時３０分でしたが、飛行機の窓から覗いたマイアミ近郊地域は目をみはるばかりのひかり、ひかり、光のシンデレラのお城のように見えました。アメリカという国の物欲のすごさをありありと見た思いでした。この様子では、この国の人々の多くが地球温暖化防止に進んで参加する気持ちにはなりにくいだろうなぁ、と思いました。
この国がイラク戦争を始めた本音は石油を奪い、自分達の物欲のために　イラクの人々の命、世界の人々の命、そして又、少しばかりのアメリカ人自身の命などどうでもいいと考えているのではないかと思ってしまいます。戦争とは、誰かの儲けのために起こしているように見えます。

以上のことを考えて、私は、日常生活の中で物欲を少なくするように生きていく為、友達と年４回ほどフリーマーケットを開催して、その収益金をアフリカエイズ基金に送金しています。今年は、１０万７千弱の送金する事ができました。フリマの品物は友達、知人からの提供で、彼らからも物の整理が出来、物から開放されて良かったという声が返ってきています。私達が生きるためには、多くの物はいらないことに、私の周りでは気づき始めています。

以上、私が述べた内容が少しでも参考になり、多くの人たちが憲法９条を守り、「戦争は絶対にしない。」という考え方へ向かう橋渡しになれば、と望みながら、日々生活をしていきたいと思っています。

(resumo)
Miaj tri deviz-artikoloj, per kiuj mi vivas por ke militoj neniam okazu.
La unua estas tio, ke mi informu miajn geamikojn kaj imformiĝu pri tragedio de militoj.
La dua estas, ke mi lernu Esperanton.
La tria estas, ke mi laŭeble forlasu avidon de materioj.

Esperanto en la verkoj de SEGAŬA(SEGAWA) Masao(Scienc-Fikcia verkisto)

瀬川昌男（ＳＦ作家）の作品に出たエスペラント

HOŜIDA Acuŝi

多くの少年少女向けの科学冒険小説・宇宙科学冒険小説を書いた瀬川昌男の作品にはよくエスペラントが出てくる。前号（No.116）の21頁の新聞記事に出たSF読み物もその一つだろう。

ここでは 1968 年初刷、1988年16刷の「チタンの幽霊人」と、1969年初刷、1988年 14 刷の「火星地底の秘密」から拾い出してみた。

チタン p189

チタン，p24
の幽霊人

■エスペラント……ポーランドのザメンホフによって作られた国際語。英語などより文法がやさしい。将来はこれが宇宙標準語になることを作者は希望している。

す。各自したくができましたら、各班の班長の指示に従って、エアロックにお集まり下さい。」

その言葉は、もちろん、宇宙標準語になっているエスペラント(国際語)だ。開拓隊員たちは、同じ国語を使う者どうしはべつとして日常会話にも、エスペラントを使うことが多かった。

火星地底の秘密 p86

「おくさん、エスペラントで話してくれませんか。エスペラント、エスペラント……わかりますか。」

エスペラントは昔からある国際語だが、いまでは宇宙の標準語になっている。宇宙で外国人と話すときには、エスペラントを使うのがエチケットだ。

「アハ　ファ……パルドヌ　ミン！」

金髪の婦人はやっと気がつくと、エスペラントで同じことをくり返した。

「パルドヌ　ミン（ごめんなさい）。ミアフィリーノ　ロッテ　マルアペリス（娘のロッテがいなくなりました）！」

＊Mejlŝtono 2007 novembro N-ro 204,仙台Ｅ会：B5X 8 頁中E.文は１頁半。「世界をつなぐ言葉」／村上洋太は、「英語が国際語」に疑問を感じ、「中立の人口国際語」を聞いたことがあった、とネットを探してエスペラントを見つけ、学習を始めた、という。

＊Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/ Novembro 2007 N-ro 225;B5 X22頁中E.文８頁。横浜ＵＫの開会式で熱弁をふるった97歳の栗栖継の「エスペラント運動のあり方への一考察」は長い体験に裏打ちされており教えられるところが多い。

＊La Suno/88, 2007年12月 2日発行、山梨エスペラント会、B5 X20頁のうちE.文１１頁。表紙に冬の星座の説明とMahatma Gandhiの言葉。横浜ＵＫの来訪者の記事が多い。Pasporta Servo の Gastiganto,甲府の工藤尚さん宅には十人が来訪した。

＊La Movado;KLEG（関西エスペラント連盟）発行、N-ro 682 dec. 2007, B5 X20頁のうちE.文３頁。日本大会関係記事、Kajero Libervola(KABA Toyohiko）の、現代医学による餓鬼地獄の指摘は考えさせる。Mikspotoに新婦人しんぶんの川合由香の記事。図書目録２００８が付録。

＊NOVA VOJO:N-ro 435 decembro 2007 EPA （エスペラント普及会）、A5 X36 頁中Ｅ文９頁。Ŝintoismo kaj Oomoto は 92UK での講演記録。La rozo nomiĝas "Fraŭlino" はバラの新種フラウリーノのこと。

＊SFERILO: SFERO (San Francisco Regional Organization)発行、月刊、278 X 216 mm 1枚２頁、１月例会予告号。12月例会では Don Harlow(病気で役員を辞任といわれるが）が Auld の Ebrio などを朗読している。

＊La Movado;KLEG発行,N-ro 683 jan. 2007, B5X16 頁のうちE.文４頁.Demokrata ideo en postmilita Japanio は前号から始まった 92UK の講演記録の２回目。

＊NOVA VOJO:N-ro 436 januaro 2008, EPA, A5 X34 頁中Ｅ文13頁。92UK後の綾部での Bonvenon al Oomoto! には海外から73人の参加者から数人の文が出ている。梅棹忠夫論（藤本達生）はこの号の７回目でひとまず終わる。

＊VOJO SENLIMA; N-ro 170, januaro 2008, 熊本エスペラント会. A4 X6 頁, E.文なし。Fronta paĝo の写真は世界大会（横浜UK）の出席者インドネシアのハザイリンさんと中国のションさん歓迎会のもの（８月１日）。横浜UKの参加記２編。活動日誌には10月11日宇土の座談会と13日の熊本の学習会に星田が参加したとの記録がある。「大事なお知らせ!!」に「ついに今回電子化することにしました。次号からメール版をお送りします」とのこと。第82回九州エスペラント大会（５月10日、熊本）の案内同封。

＊La Movado;KLEG発行,N-ro 684 feb. 2008, B5X16 頁のうちE.文６頁半。巻頭記事はSkizo de la japania movado en 2008. Korespondado en Esperanto (MIJAMOTO Seiko)は「援助」がエスペラントがめざす amikecoなのか、と問題を提起する。「各地でザメンホフ祭開催」に苫小牧の記事。

Raporto de Tomakomaja Esp. -Societo
苫小牧エスペラント会活動報告（２００６＼Dec. ～２００７＼Nov.）

＊Regula Kunsido(Ĝis junio): 2-foje monate, vespere dum 1800~2100 en apartaj lokoj. Unu fojon en la Centro de kulturaj interŝanĝoj (karesnome:ajvii-plaza, de angla ivy-plaza - ni provizore nomu IV-Placo). Ankoraŭ unu fojon ni kunsidas en la hejmo de Familio Hoŝida.

Niaj mez-klasanoj legas "VOJAĜO EN ESPERANTO -LANDO"-n. Elementa-klasanoj korespondas kun alilandanoj, legas facilajn legajojn kaj proverbojn, k.a. Ni uzas ankaŭ aliajn materialojn el interreto laŭbezone.

(Ekde julio) Unu fojon monate ĉe IV-Placo, ĉar kunsido ĉe Hoŝida neebliĝis pro funebro.

＊Zamenhofa Memorkunveno:Dec\12 En IV-Placo kunsidis ok. Ni kantis Espero-n, Tagiĝo-n, aŭskultis raporton , diskutis , babilis , havis bankedeton en Drinkejo Toritej.

Kunsidis:Ges-roj Hoŝida, Kageura, S-roj Satoo, Oojamaguĉi, S-ino Mikamai kaj F-ino Mijamura.

＊Jan.\21:Novjara Bankedo ĉe la hejmo de HOŜIDA. Kunsidis 13 (Ges-roj Hoŝida, Kageura, Cubaki, Ŝibata, S-roj Satoo, Janada, Oojamaguĉi, F-inoj Mijamura kaj Ŝibata Saho).

＊Elementan Kurson ni planis komenci je 22/majo kiel parto de tutlanda kursara kampanjo, sed ne aperis lernonto. Kiel informi kaj interesi la publikon pri nia afero, estas ankoraŭ nia plej grava problemo.

＊La 71-an Hokkajdan Kongreson de Esperanto (Sapporo, 7\28～7\29) partoprenis 3 membroj.

＊En Jokohama UK, kolektinta 1901 kongresanojnel la tuta mondo, partoprenis 37 el Hokkajdo, el Tomakomai 11.

＊Festivalo de la civilaj grupoj en IV-Placo okazis dum 23a~26a/aŭgusto. Ni ekspoziciis fotojn kaj raportojn pri Jokohama UK per la pleja spaco de nia parto. Aldone ni metis ankaŭ bildrakonton de Tony Lazzlo pri Esp. kaj Esp-ajn librojn kaj organojn.

＊S-ro SATOO Motozi, ano de Jurnalo Hokkajdo, vizitis hejmon de HOŜIDA la 18an/okt. kaj niankunsidon en IV-Placo la 23an de oktobro. Liaj artikoloj aperis la 22an kaj 27an de oktobro.

＊例会（６月まで）：月２回1800～2100、１回は苫小牧市文化交流センター（愛称アイビープラザ）、もう１回は市内宮の森の星田宅にて。
中級クラスはテキストとして"VOJAĜO EN ESPERANTO-LANDO"を使用。
入門クラスは海外の同志との文通、
やさしい読み物、
ことわざなど。
このほかにも随時
インターネットからの資料を読む。
（７月以降）家庭の事情により星田宅の使用が困難になり例会は月１回になった。

＊ザメンホフ祭：１２月１２日アイビープラザにて。８人参加。活動報告、討議のあと、場を「鳥亭」に移して親睦会。
出席者：星田淳、星田文子、影浦英明、影浦泰子、佐藤英治、大山口誠、三上さち子、宮村佳奈。

＊１月２１日星田宅で新年会。１３人参加。（星田淳、星田文子、影浦英明、影浦泰子、椿正一、椿曜子、佐藤英治、梁田俊幸、大山口誠、宮村佳奈、柴田真吾、柴田智美、柴田佐保）

＊入門講習会５月22日から日本エスペラント運動百周年記念「あっちでも、こっちでも講習会」に参加として計画したが、新人現れず。
我々の活動をどう宣伝すれば関心を持ってもらえるか、が依然最大の問題。

＊第７１回北海道エスペラント大会（札幌、７月28日～７月29日）に会員３名が参加した。

＊８月４～１１日、世界から1901人が集まった横浜ＵＫ（第９２回世界エスペラント大会に北海道から３７名、苫小牧から１１人が参加した。

＊アイビープラザ・サークルまつり：８月23日～26日、エスペラント展を開いた。
横浜ＵＫの説明と写真が大きなスペースを占め、トニー・ラズロさんのエスペラント解説マンガやエスペラントの本、外国の機関誌なども展示。

＊10月18日北海道新聞苫小牧支社の佐藤元治記者星田宅を訪問取材。10月23日、同記者がアイビープラザの例会を訪問取材した。記事は10月22日の「道央ひとワイド」と10月27日の「苫小牧圏@日胆com に出た。

ザメンホフ祭報告

★札幌エスペラント会（SES 通信#60　08/01/10 より）

恒例のザメンホフ祭はＨＥＬから星田委員長、佐藤事務局長、川合地区委員が参加して１２月１５日に開かれました。準備不足のため内容にいまいちの所もありましたが、川合さんの紙芝居「新説浦島太郎」やＳＵＤＯＫＯ（数独）等を楽しんだ。終了後は二次会と忘年会を兼ねてレストラン「マイヨール」で行いました。こちらは意気軒昂で議論百出でした。

臨時総会　ザメンホフ祭に先立ち、ＳＥＳの臨時総会が開かれました。後藤会長が諸般の事情から職を辞し、新会長に切替英雄さんが選任されました。同時に広報担当も兼任し、会場係は山岸さんが引き受けることになりました。議論の中で任期についても触れ次期から、任期は二年とし、規約に盛り込むことも付託事項としました。

★苫小牧ザメンホフ祭

苫小牧では１８日ザメンホフ祭でした。苫小牧市文化交流センター（アイビープラザ）で１８時から。この１年の活動を振り返り、来年はどう進めるかを話し合う。

１２月発行された学校図書館向け壁新聞（図書館ニュース・少年写真新聞）をどう活用するか、など話しました。２０時ごろ居酒屋「鳥亭」に場を移して懇親会。都合のつかない人があって、出席はたった６名ながら、賑やかにやりました。

[第３回委員会報告] Protokolo de la 3-a Komitata Kunsido

日時：2007年11月10日（土）18時～　場所：札幌市民活動サポートセンター
出席：川合、後藤、佐藤英治、椿、横山、星田（記録）
欠席：阿部、大山口、佐藤不二雄、須藤、中田
議事
＊組織：会員数５９名。会費未納者への納入勧誘文書（担当：星田）を送る。
＊財政：S-ino 椿　が kasisto　に就任してもらえる、との返事があった。
＊広報：HEL ホームページへのアクセス、1998年11月19日からの累計 56527件。
＊メールマガジン：Heroldo de HEL No.116 に「メルマガの申し込み方」を載せた。
＊情報・宣伝（マスコミ掲載）：
・岩波新書の『エスペラント』（ 田中克彦著）についての川合さんの書評が新日本婦人の会の機関紙「新婦人しんぶん」読者 30 万人）に出た（ROの11月号で既報）

・Heroldo de HEL No.116 (p.20~21) にも載せたが、
北海道新聞１０月２２日、２７日に記事（苫小牧支社佐藤記者）が出た。
＊教育・研究
研究教育部長に川合由香さんの就任を承認
苫小牧で EPA支部と合同の研究会ができないか、との意見があった。
＊機関誌：１１月１０日 N-ro 116 印刷発行（１２０部）。
＊年間計画
５月合宿：候補地（虎杖浜温泉）について、椿委員が調査する。
北海道大会：函館開催は困難。他の可能性を探る。
極東ロシア：ロシア側の 2008 年の予定を問い合わせる（星田）
＊図書部：中田部長欠席。報告なし
一昨年の日本大会（横浜）に出品のためサッポロ堂書店から借りた
Ainaj Jukaroj ６部がまだ返却されてなかったので１１月１０日サッポロ堂を訪れ返却（佐藤、星田）。
＊次回委員会：2008年 1月26日（土）16時、札幌市かでる2･7 の６階。
機関紙印刷はこの日１０時から札幌市民活動サポートセンターでの予定。
****
［編集後記／Redaktanto parolas ...］
＊道内外の多くの方々の支持をいただき、北海道からＪＥＩ評議員２人が選出されました。Elkoran dankon!
ここでＪＥＩ評議員のうち北海道に関わりのある方を紹介します。
＊北川昭二さんは Revuoへの起稿も多く、横浜UKでは大会新聞 Ondas Jokohamo の記者として活躍。北川さんの恩師渡辺隆志さんは昭和初年苫小牧工業学校（現苫小牧工業高校）でエスペラントを指導された方です。
北川さんは今ＮＨＫの朝ドラのヒロインの故郷、福井県小浜市においでです。
＊もう一人、工藤尚さんは三笠市出身、エスペラント講習で指導を受けたのは由仁町の UEA-Delegito だった新田為男さんから。「新田先生から、もう教えることはないから、JEI に入りなさいーと言われて入会した」など、当時の話をうかがいました。

私は昭和２５年に岩見沢西高校１年の夏休みに城戸崎益敏著『エスペラント第一歩』（白水社）を買って独習しました。その後、昭和２７年の秋に岩見沢市のキリスト教教会で由仁から出て来た新田さんが小坂狷二『エスペラント講習洋用書』と『エスペラントの鍵』を使って、毎週土曜日全１０回くらいの講習会を開いたのです。講習会終了後、新田さんの勧めでＪＥＩに入会しました。昭和２９年に東京に住むようになりましたが、何年かは『Leontodo』（注：当時のＨＥＬ機関誌）を読んでいました。